

## 研究報告

# 救護訓練を通して看護学生が捉えた災害時の看護師の役割

The role of nurses during disasters inferred by nursing students through rescue training

中山由美<sup>1)</sup> Yumi Nakayama, 森嶋道子<sup>1)</sup> Michiko Morishima,  
竹中 泉<sup>1)</sup> Izumi Takenaka, 佐久間夕美子<sup>1)</sup> Yumiko Otsuka-Sakuma

**要 旨** 災害看護論の授業において救護訓練の一環として、看護学生20名が、救命救急センターが実施した学生メディカルラリーにプレイヤーとして参加した。本研究は、学生メディカルラリーに参加した学生が、災害時の看護師の役割についてどのように捉えたのかを明らかにすることを目的とし、学生のレポートを分析することで、今後の災害看護論の授業内容を検討する一資料になると考えた。学生がレポートに記述している災害時の看護師の役割について、一文を抽出しコード化した。そして、意味内容から類似性を検討しカテゴリー化した。結果、30のサブカテゴリーから、＜災害現場の安全を確保する＞＜応援要請を行う＞＜救護活動を実践する＞＜器材使用の判断ができる＞＜迅速に処置を実施する＞＜全体把握をし、状況判断ができる＞＜災害現場の情報収集を行う＞＜救護者間で情報共有する＞＜要救護者、家族、周囲の人への精神的援助を行う＞＜家族への状況説明を行う＞の10カテゴリーが明らかとなった。学生は、他職種の学生達とチームを組み、看護の主体者として救護を行うことにより、チーム医療での看護師の役割や多くの看護実践内容を体験から学びに繋げていた。

**キーワード** 看護教育、災害看護、看護学生、救護訓練

## I. はじめに

厚生労働省は、平成18年に設置した「看護基礎教育の充実に関する検討会」において指定規則改正案の検討を行った。次いで文部科学省が、厚生労働省の動向に呼応して、「大学・短期大学における看護学教育の充実に関する調査協力者会議」を設置し、指定規則改正案を看護系大学等に適用する場合の課題などについて検討を行った。指定規則改正にとともに、平成21年より看護基礎教育のカリキュラム改正が行われることが決定された。看護学教育の発展で新たに追加が提案された「看護の統合と実践」では、災害時に必要となる基礎能力・技術教育に加えて、看護学の各専門領域を担当する教員がその専門性を活かして協力し、実践性に富む基礎能力を確実に

に修得させる教育方法を開発するなどの工夫が考えられると文部科学省が明記している（文部科学省, 2017）。厚生労働省もまた、看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの中で、災害看護について、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する内容とすることを明記している（厚生労働省医政局長, 2016）。これらのことより、看護基礎教育課程において、学生が災害に対応できる基礎的な知識と技術を学ぶことが重要であると考えられる。

先行研究では、質問項目を作成し、看護学生の災害に対しての意識を調査した研究がある（幸島他, 2014；中村他, 2013）。また、東日本大震災時の某病院の活動について記載されている著書を読んだ後、グループワークなどを実施し、災害看護の役割と災害看護に必要なことをレポートに記載させ、レポー

1) 摂南大学看護学部 Faculty of Nursing, Setsunan University

ト内容を分析しているものなどがある（佐藤, 2014）。被災地支援としてボランティア活動をした学生の学びなどを抽出した研究（中川他, 2015；柏葉他, 2014）では、災害サイクルの復旧復興期に調査が実施されている。前田他（2011）は、防災訓練にトリアージを取り入れた学習の実践報告として、質問紙項目の調査と共に学生の訓練に対する自由記載をまとめている。

これらの先行研究は、研究者が項目を作成したアンケート調査が多い。また、災害サイクルの慢性期のボランティアを通しての学生の学びを記載しているものが多く、災害サイクルの急性期での学生が捉えた災害看護の役割や学びを質的研究にて明確にしたものは少ない。

先行研究からも分かるように、看護基礎教育課程の災害看護の授業において、学生が災害看護の救護実践を体験することは難しく、演習内容について色々な取り組みが検討されている現状がある。

学生が被災者の心身の状況や災害看護を理解するためには、災害サイクルの慢性期の理解だけでなく、災害サイクルの急性期において、被災者および要救護者がどのような体験をしているのかを理解する必要があると考える。

A大学では、看護学部4年次生を対象に災害看護論の授業を実施している。授業において、東日本大震災や阪神・淡路大震災の現状や課題をイメージできるように視聴覚教材を使用し、大学の備えなどについてグループワークを実施し、一次救命処置や三角巾法などの救護についての演習を取り入れていた。しかし、学生が災害時の急性期の看護活動をイメージ化することに限界がある。そこで災害看護論の授業の一環で、看護師役として救護を体験し、看護師の役割について理解することを学習目標とし、看護学生（以下、学生）が、大阪府済生会千里病院救命救急センターが主催している学生メディカルラリー（以下、ラリー）に参加できるようにした。救護体験から学生が災害時の看護師の役割をどのように捉えたのかを明らかにすることで、今後の授業内容を検討する一資料となると考えた。

## Ⅱ. 研究目的

救護訓練として、ラリーにプレイヤーで参加した看護学生が捉えた災害時の看護師の役割について明らかにする。

## Ⅲ. 災害看護論の概要

災害看護論は、4年次後期の選択科目であり、2単位15コマである。授業目的は、「災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護の役割やトリアージ法、救命救急時の看護や一次、二次救命処置などについて学ぶ」ことである。ラリー参加のねらいは、「学生が災害時の救護として多職種連携をイメージできるように、また看護師として重症患者や対象者の救護を体験し、災害時の看護師の役割について理解する」ことである。

2016年度は、災害看護論の演習として、ラリーに参加し、ラリー参加後に机上の授業を行った。ラリーは、9月24日9時集合で16時30分頃に終了した。履修学生97名のうち、20名がラリーのプレイヤー、25名がシナリオブースを運営するボランティア、52名がラリーの観察者であった。

ラリーとは、医学部生や看護学生、救急救命士学生を対象とし、他職種合同での救護の困難さを実体験し、他職種との協力、コミュニケーションの重要性を感じられるように運営されている。他職種の学生達とグループを組み、模擬患者を診察して、限られた時間内にどれくらい的確に診断と治療を実施することができるかを競う技能コンテストである。

ラリーのシナリオブースの一例を次に記載する。

1. 救急車の運転手が意識消失し、交通事故を起こした。意識障害の運転手および骨盤骨折の被害者を救護する。
2. 外出先で親子が心肺停止になり、傷病者への救護と共に、家族や見物者の対応をする。
3. トンネル内での多発交通事故が発生し、トリアージの実施中に車の爆発が起き、二次災害が生じる。

## IV. 研究方法

### 1. 対象

2016年度の災害看護論を履修し、ラリーにプレイヤーとして参加後、研究協力の同意が得られた20名のレポート内容を対象とした。

### 2. 調査内容

対象であるレポートのテーマは、災害時の看護師の役割として考えられることとした。大学のMoodle（オープンソースのeラーニングプラットフォーム）で1000字程度記載できるように設定し、ラリー参加後、1週間以内に個別に入力してもらった。

### 3. 分析期間

2017年2月から2017年8月。

### 4. 分析方法

共同研究者間で担当し、次の作業を行なった。

レポートで、災害時の看護師の役割について記載している一文の意味を捉え、コード化した。次に、意味内容の類似性を検討しカテゴリー化した。各共同研究者が分析を担当した分析データを統合する時に、妥当性を確保するために、生データやコードの文の意味の読み取りや、カテゴリーの命名について同意が得られるまで研究者間で検討を繰り返した。

## V. 倫理的配慮

分析資料は、2016年度の災害看護論の学生のレポート内容であり、科目履修が終了し成績処理後に、学生にレポートを研究で使いたい旨やデータを匿名化すること、研究参加を拒否する権利などがあることを説明し研究依頼を行った。科目の成績と一切関係ないことを説明し、研究者らの連絡先を提示した。また、承諾書の提出をもって研究参加に同意が得られたこととした。承諾書の提出は、研究者らの強制力が働かないように、大学に設置された鍵のかかるレポートボックスに2週間以内に提出してもらうように依頼した。摂南大学医療倫理審査委員会の承認を得た(承認番号2016-059)。

## VI. 結果

学生が記述した災害時の看護師の役割について分析した結果、136のコードから30のサブカテゴリーが抽出され、10のカテゴリーが明らかとなった(表1-1、表1-2参照)。以下、学生の記述内容は斜体文字で「」、サブカテゴリーを【】、カテゴリーを< >で記載する。

### 1. 災害現場の安全を確保する

<災害現場の安全を確保する>のカテゴリーでは、【傷病者の安全確保を行う】、【医療従事者の安全確保を行う】、【自分の安全確保を行う】、【現場の安全確保を行う】、【二次災害を予防する】のサブカテゴリーで構成された。

【傷病者の安全確保を行う】は、「対象者の安全を第一に考え救出するという点で、新たな傷病者を出さないためにも安全確認は、看護師に限らず各々が行い、情報共有していくことが求められると考える」と記載されていた。次に、【医療従事者の安全確保を行う】では、「医療者の安全も守れるよう状況判断することも重要だと考えた。傷病者を助けなくてはいけないという思いが強くて周りが見えなくなってしまうと、危険が及んだときにすぐに行動に移せなくなってしまうので、傷病者も医療者も安全であるかを判断する能力も重要だと考える」と述べられていた。また、【自分の安全確保を行う】では、「災害看護を行う上で看護師自身の安全を確保することは何よりも大切であり、全職種に共通してまずは自身の生命、身体を守れる様にならないといけないという事を改めて考えることができた」と記載されていた。【現場の安全確保を行う】は、「周囲の安全の確保が行えることで、車による事故ならエンジンを止め火災の危険があれば離れるなどが必要である」と記載されていた。【二次災害を予防する】では、「安全に救命処置を行える状況であるかを判断する必要がある。周囲をよく観察し患者を安全な場所に移すなどして状況を整えることが大切な役割だと考えた。大規模な災害が発生した際には、看護師は処置の前に、まず安全な環境を整え二次災害を予

表 1-1 災害時の看護師の役割

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
災害現場の安全を確保する	傷病者の安全確保を行う	傷病者の安全確認のため状況を確認する	
		傷病者の安全を守る 傷病者の安全を第一に救出する	
	医療従事者の安全確保を行う	対象者の安全確保を行う 医療従事者の安全を守る	
		医療者の安全確保を行う 自身の生命、身体を守る。	
	自分の安全確保を行う	自分の安全を守る自己管理能力が必要である。 自分自身の安全を守るのは自分自身である。 自分に対しても安全に配慮し、行動する。 人命救助時、自身の安全を守る。	
		現場の安全確保を行う	現場の安全確保を行う。 現場の安全管理を行う。 現場の安全確認をする。 安全な環境をつくる。
	二次災害を予防する		二次災害が起こらないようにする 安全確保と二次災害の予防を行う
	応援要請を行う	周囲に応援要請を行う	周囲への AED や救急車の要請を確認する 医師および他医療従事者へ協力要請する 災害現場にいる周囲の人にも応援要請する
		応援要請のため情報を的確に伝達する	応援要請のため、情報を伝達する 応援要請する内容を的確に説明できる
	救護活動を実践する	トリアージを実施する	トリアージを行い優先度を決める START 法の実施ができる トリアージの実践ができる トリアージを適切に行う トリアージを行う リーダーヘトリアージ結果を報告する トリアージを行い優先順位を決定する トリアージを行い、優先順位を決定する 複数の対象者の状態変化を把握する
救急蘇生を実施する			BLS を実施できる 救急蘇生を行う
バイタルサインの測定を行う			バイタルサイン、意識状態の確認を行う バイタルサイン測定をする
器材使用の判断ができる			少ない器材の使用優先順位を判断できる
		限られた器材の有効活用をする	資材の中身を把握しておく 医療器材がない中での応用力を備えている
迅速に処置を実施する	医師の処置が円滑に行えるように補助する	医師の診療の補助を行う 診療の補助を素早く的確に行う 実施する処置の必要物品を予測してスムーズに処置が実施できるようにする 処置が円滑に回るように補助を行う 医師の処置の補助を行う 医師の処置などの補助を行う 医師の指示通り、処置などがスムーズに行えるように補助する 治療が進むように落ち着いた態度で医師に接する	
		知識を持って処置に関わる	知識を持って傷病者の観察や治療をする 応急処置を行うための正確な知識と技術、判断力を備えている 病態や技術などの知識を持ち、患者に起こっていることを理解し、適切なケアを実施できる 幅広い知識が必要である 命を救うための知識を身に付けている 医師の指示がない時にも活動ができる
	救護現場の全体把握ができる	救護現場の状況把握し、情報共有できるように調整する 現場の情報整理や統括を行う 現場の状態を客観的に判断する 冷静に判断し、全体を見渡わす 優先順位をつけて処置を行う 必要な処置を直ぐに判断し対応する	
		患者のアセスメントを実施できる	救命処置を行うためのアセスメント能力が必要である 観察とアセスメントを行う 診療の補助をしながら、傷病者のアセスメントをする 医療者や周囲の状況を冷静に捉え、アセスメントする アセスメントを行い、患者の優先順位を決める 医師に指示される前に状況をアセスメントし、何を行うのか判断できる バイタルサイン測定を行い、患者の状態をアセスメントする
全体把握をし、状況判断ができる	適切でない治療が行われていることに意見が言える	行われている治療が適正であるか把握できる能力を保持し、患者に不利益が生じないようにする 医師の判断がおかしいと伝えることができる 医師が混乱している時、看護師が処置を確認する 気持ちを切り替える	
	冷静な精神力で対応する	災害現場の空気に流されず、冷静に対応する 救助するための体力、精神力を備えている 冷静で迅速な対応を行う	

防することが大切な役割であると感じた」と述べられていた。

＜災害現場の安全を確保する＞のカテゴリーは、看護師自身を含め、災害現場で生存している者の安全を確保する重要性が述べられていた。

## 2. 応援要請を行う

＜応援要請を行う＞のカテゴリーは、【周囲に応援要請を行う】、【応援要請のため情報を的確に伝達する】のサブカテゴリーで構成された。

【周囲に応援要請を行う】は、「医療従事者の力だけで患者を救出することが全てではなく、周囲の方であっても、災害対応力になって頂ける人がいれば、協力して頂く判断も必要であると学んだ」などの内容であった。次に、【応援要請のため情報を的確に伝達する】では、「救急隊を要請する際、現在の状況を冷静にかつ適切に説明できるのも看護師だと考えられる」と述べられていた。

＜応援要請を行う＞では、傷病者を救助するために状況を把握し、応援要請を行う必要性が述べられていた。

## 3. 救護活動を実践する

＜救護活動を実践する＞は、【トリアージを実施する】【救急蘇生を実施する】【バイタルサインの測定を行う】のサブカテゴリーで構成された。

【トリアージを実施する】では、「START法の実施ができる」などの内容が記載されていた。次に、【救急蘇生を実施する】は、「心肺停止の場合は胸骨圧迫、人工呼吸を施行し、AEDを持って来るよう指示をだす」が、【バイタルサインの測定を行う】では、「傷病者のバイタルサインやショック徴候の観察を行い、今できる最善な処置を行うことが必要である」などが記述されていた。

本カテゴリーは、災害急性期の救急対応の内容が記載されていた。

## 4. 器材使用の判断ができる

＜器材使用の判断ができる＞は、【少ない器材の使用優先順位を判断できる】、【限られた器材の有効活用をする】のサブカテゴリーから構成された。

【少ない器材の使用優先順位を判断できる】は、

「多数の負傷者がいる災害現場では、少ない物品をどう使用するか考えることも看護師の役割の一つだと考える。そのために、医師に優先順位を判断するよう促したり、どちらの患者に物品を使用すべきか判断したりする必要がある」と述べられていた。【限られた器材の有効活用をする】では、「指示が出た時にすぐ対応できるように資材の中身の把握やどのような患者がいるのかを想定しておくことも大切であると考えられた」などが記述されていた。

＜器材使用の判断ができる＞では、日ごろから器材の把握をしておき、適切な判断で器材を使用していく必要性が記述されていた。

## 5. 迅速に処置を実施する

＜迅速に処置を実施する＞は、【医師の処置が円滑に行えるように補助する】、【知識を持って処置に関わる】のサブカテゴリーで構成された。

【医師の処置が円滑に行えるように補助する】は、「災害や救命処置が必要な場であっても、医師がスムーズに処置ができるように補助することも大切なのだ」と学んだ」などが述べられていた。次に、【知識を持って処置に関わる】は、「処置を行う医師のサポートだけではなく、医師の指示がない場合であっても積極的な活動が求められる」などが記述されていた。

＜迅速に処置を実施する＞のカテゴリーは、患者を救命するために、処置がスムーズに進むよう、看護師自身が行動していく必要性を学んでいた内容である。

## 6. 全体把握をし、状況判断ができる

＜全体把握をし、状況判断ができる＞のカテゴリーは、【救護現場の全体把握ができる】【優先順位をつけて処置を行う】【患者のアセスメントを実施できる】【適切でない治療が行われていることに意見が言える】【冷静な精神力で対応する】であった。

【救護現場の全体把握ができる】は、「看護師としての役割として重要なことは、現場の状況を客観的に把握することであると考え。自分にできることは何なのか、応援を必要としているところはどこなのか迅速に把握していればより多くの命を救えたの

ではないかと考える」などの内容が記載されていた。【優先順位をつけて処置を行う】では、「病院とは違い、場所も資材も限られた中で何に対して一番対応しなければならないのか、どのような処置が必要なのかをすぐに判断することが必要であると感じた」などが記載されていた。次に、【患者のアセスメントを実施できる】は、「傷病者がすぐ治療を受けられるよう、看護師は疾患や病態の知識を身につけるだけでなく、素早くアセスメントする能力や、一刻を争う状況にあるので、どうしようと悩むのではなく、補助をしながら傷病者の状態をアセスメントすることも重要ではないかと考える」などが記載されていた。また、【適切でない治療が行われていることに意見が言える】は、「看護師は主に医師からの指示を受け、治療に当たる場面が多く見られた。現場は、被害により騒然としており医師も確実な正確な判断が行える場面でないことも多くあった。そのような場面においても看護師は、傷病者の命を守るため、医師の判断がおかしいと判断した場合には、その理由を的確に言葉で伝えることが看護師としての役割であると学ぶことができた」などが述べられていた。【冷静な精神力で対応する】は、「焦ることなく冷静に状況を把握して適切な判断のもと、迅速な対応を行う」などの内容であった。

このカテゴリーは、看護師が知識を保持し自分自身の考えを持ち、他職種の学生にも自分の意見を伝える重要性を学んでいた内容である。

## 7. 災害現場の情報収集を行う

＜災害現場の情報収集を行う＞のカテゴリーは、【家族から要救護者の情報収集を行う】、【発見者から要救護者の情報収集を行う】のサブカテゴリーで構成された。

【家族から要救護者の情報収集を行う】は、「家族からアレルギーの有無や既往歴、内服薬、また、倒れた状況などを正確に情報として聞き出すことは、傷病者への的確かつ迅速な処置につながると考える。・・・(省略)・・・より正確な状況の把握につながる情報の聴取も重要であると考え」などが記載されていた。次に、【発見者から要救護者の情報収集

を行う】では、「なぜそのような事故・事件が起こったのか家族や発見者・通報者、周囲にいる人たちから聞き出し、概要を他職種に伝える」などの内容であった。

このカテゴリーは、要救護者に的確な処置を実施するために、事故発生状況や対象者の日ごろの状況についての情報を収集する必要性が述べられていた。

## 8. 救護者間で情報共有する

【リーダーに情報を的確に伝える】、【他の救護者と情報を共有する】、【チーム内でコミュニケーションを図る】のサブカテゴリーから救護者間で情報共有する＞のカテゴリーが抽出された。

【リーダーに情報を的確に伝える】は、「赤の患者に対してバイタル測定を行ったり、ルートの確保、患者の様子を観察し医師や救命救急士（リーダー）に報告をする。対象者のバイタル測定を行い、薬剤投与後や処置後のバイタルの変動の有無を確認して、医師や救命救急士に伝えることで他職種が次の行動を予測しやすいように動く必要がある」などが記載されていた。次に、【他の救護者と情報を共有する】は、「チームがスムーズにそして安全に処置にあたれるように、情報や状況を統合し、チーム全員で共有できるように橋渡し役になること、限られた時間や限られた器具や人員で、スムーズに処置を行うためには、いち早い情報共有が大切になってくる」などが述べられていた。【チーム内でコミュニケーションを図る】では、「現地スタッフや他の地域から来た医療者ともしっかりとコミュニケーションを図り連携していくことも求められていると考える」などの意見があった。

＜救護者間で情報共有する＞は、救護を実施する上での情報提供、情報共有を行う橋渡しの役割が看護師にあることが記載されていた。

## 9. 要救護者、家族、周囲の人々への精神的援助を行う

＜要救護者、家族、周囲の人々への精神的援助を行う＞では、【パニックを起こした人の不安を軽減する】、【要救護者、家族の不安を軽減する】、【要救護者、家族に寄り添う】、【周囲の人々への対応を行

表1-2. 災害時の看護師の役割

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
災害現場の情報収集を行う	家族から要救護者の情報収集を行う	家族から情報収集をする
		家族や現場状況を知る者からの情報収集を行う
		家族から情報収集を行う
		対象者および家族から正確な情報収集を行う
		対象者および家族から上手く情報を聴き出す
		対象者の既往歴、現病歴を情報収集する
		家族から病気や薬の情報収集を行う
	発見者から要救護者の情報収集を行う	家族から患者の既往などを聞き出す
		家族から既往や内服薬の情報を収集する
		周囲の人から情報収集を行う
		関係者から情報収集と伝達を行う
		第一発見者から処置に必要な情報収集を行う
		第一発見者からの情報収集を行う
		目撃者に患者の状況を聞き出す
救護者間で情報共有する	リーダーに情報を的確に伝える	的確な処置を行うためにその場に居合わせた人から情報収集する
		情報収集した内容を医師に伝達する
		医師の処置に必要な情報を収集し、共有する
		対応した患者の情報収集と医師への的確な報告を行う
	他の救護者と情報を共有する	バイタルサインや観察した内容をリーダーに報告する
		チームメンバーでの情報共有を行う
		チームで情報提供と、共有を行う
		救助に当たるメンバー内でコミュニケーションをとり、情報共有をする
		他医療従事者と情報共有する
		多職種間での情報共有を行う
		他職種間での情報共有を行う
		チームで情報共有できるように橋渡しをする
		患者の状態、経過を他医療従事者に情報伝達する
		処置がスムーズに進むように、情報収集しチームに提供する
チーム内でコミュニケーションを図る	他医療従事者に情報を伝達する	
	家族から服薬などの情報収集をし、医師らと情報共有する	
要救護者、家族、周囲の人への精神的援助を行う	パニックを起こした人の不安を軽減する	スタッフに情報の発信を行う
		情報収集をし、チーム内で情報共有する
		他医療従事者とコミュニケーションを図り、連携する
		チーム内でのコミュニケーションを取る
	要救護者、家族の不安を軽減する	応援スタッフとのコミュニケーションが図れる
		他職種間での情報共有を行うためのコミュニケーション能力を備えている
		パニックを起こした妻の精神の安定を図る
		家族、知人などの不安やパニックへの対応を行う
	要救護者、家族に寄り添う	パニックになっている家族の不安を軽減する
		パニックを起こしている家族の不安を取り除く
		パニックを起こしている家族にわかりやすい言葉で状況を説明する
		混乱している被害者、家族の精神的サポートを行う
	周囲の人々への対応を行い環境を整える	家族へ声かけし、精神的ケアを行う
		傷病者と家族への声かけによる不安の軽減を行う
家族が安心できるような声かけをする		
動揺している対象者への声掛けを行う		
家族への状況説明を行う	家族へ対象者の現状を説明し心理的援助を行う	
	家族や周囲の方への声かけや傾聴を行い、落ち着いてもらう	
	家族の不安に対して、声掛けを行う	
	家族の不安への対応を行う	
家族に現状や今後の経過を説明する	負傷者、家族への精神的な関わり	
	家族の不安に対して寄り添う	
	衝撃を受けた患者、家族に寄り添う	
	周囲の人の不安、混乱への対応を行う	
家族に現状や今後の経過を説明する	家族やその場にいる人々への対応を行う	
	周囲の人々への対応を行うため、傷病者のプライバシー保護をする	
	知識のない人に分かりやすい言葉で説明する	
	家族に分かりやすい言葉で説明する	
家族に現状や今後の経過を説明する	家族に現在の状態や今後の考えられる状態を説明する	
	家族に傷病者の状態や今後の流れを丁寧に説明する	
	現状や処置の状況を家族に説明する	
	今後の内服について家族に説明、指導を行う	

い、環境を整える】で構成された。

【パニックを起こした人の不安を軽減する】は、「目の前で命の危険が迫っている人を見て、動揺しない人は少ない。家族や友人ならなおさら、不安な

思いやパニックを起こす人もいるだろう。今回のメディカルラリーでは私も目の前で起こっていることに対処しきれずに動揺してしまい、周りを見渡すことができていなかった。しかし、そこには必ず、

自分たちよりも不安で何もできずに動揺する家族、友人がいるはずなのである。・・・(省略)・・・不安を抱える人たちもいるということを忘れてはいけないと感じた」などが記載されていた。次に、【要救護者、家族の不安を軽減する】では、「家族に簡単かつ丁寧に事情や今から行うことを説明し、声かけをすることで心理的援助を行うことも看護師に求められることであると感じた」と記載されていた。【要救護者、家族に寄り添う】は、「災害や緊急事態に陥っている中で、患者さんやそのご家族関係者の方は衝撃をうけてしまっていると思うので、その方々のケアが必要であり、それが行えるのは、状況下で自由に動け、普段から人の気持ちに寄り添うことを仕事としている私たち看護師であると考え」などが述べられていた。また、【周囲の人々への対応を行い、環境を整える】では、「周囲に人が集まっており、処置の妨げや家族への不安の原因につながると考えられたため、周囲から人を離すべきであった。周囲の状況に応じて、処置の妨げになる場合や患者のプライバシーを守るためにも人が多ければ、離れてもらうなど、環境を整えることも重要なことであると感じた」などが記載されていた。

このカテゴリーは、要救護支援者に対して、声かけをし、寄り添うなどの精神的援助が述べられていた。

#### 10. 家族への状況説明を行う

【家族などに分かりやすい言葉で状況を説明する】  
【家族に現状や今後の経過を説明する】のサブカテゴリーから<家族への状況説明を行う>のカテゴリーが抽出された。

【家族などに分かりやすい言葉で状況を説明する】は、「医療行為について知識がない人に対しては、医療用語は使わずわかりやすい説明をし、どんな治療を行っているのかを理解してもらう」などの内容であった。【家族に現状や今後の経過を説明する】では、「家族や周りがパニックになっているため、傷病者の状態を丁寧に伝え、これからどういう処置が行われるのか、また、急変した場合もすぐに伝えることが落ち着いてもらうために必ずしなければな

らないことなのではないかと思った」などが記載されていた。

<家族への状況説明を行う>は、家族などに安心してもらうために、今後の経過や処置の流れを説明する役割が看護師にあることが記載されていた。

## VII. 考察

学生はラリーにプレイヤーとして参加することで、災害時の看護師の役割として現場の安全確保や応援要請を行うこと、および器材使用の判断ができること、看護師が自分の考えを持ち主体的に看護をすることなどを捉えており、先行研究では明らかとなっていない学びが抽出された。

<災害現場の安全を確保する>は、実践を通しての特徴的な学びであると考えられる。先行研究では、病院が運営する災害救護訓練に参加した2年生に質問紙調査を実施している(成田, 2009)が、看護師の役割として、安全確保という視点では質問紙項目が作成されていなかった。15コマの災害看護論の授業内では、災害時の安全確保の必要性まで学生に認識させることには限界があり、ラリーに参加し、災害時や救護が必要な場面を想定した模擬患者への対応を通して、学生が気づけた点であると考えられる。

<応援要請を行う>は、必要時、他の救護者や周囲にいる人に応援要請を行わなければ、人手が足りず要救護者を救うことができないことを能動的な体験の中から、学生が看護師の役割として学んだ内容であると考えられる。このカテゴリーに関しても、先行研究で記述されているものは見あたらず、本研究の特徴的な内容であると考えられる。

<救護活動を実践する>は、看護師としてトリアージや救急蘇生、バイタルサインの測定などを実践する内容であった。先行文献では、看護師の果たすべき役割として、トリアージは、START法を基本とした実践が必要である(横田, 2015)と述べている。また、トリアージを取り入れた防災訓練に学生を参加させた先行研究の結果では、学生の学びとしてトリアージを行うにあたり注意することが分かっ



たという内容を抽出している（前田他, 2011）。学生は、ラリーで集団災害の対応を体験し救護者としてトリアージを実践したことで、複数の対象者の状態変化を把握することや優先順位を検討すること、トリアージの報告の重要性などの具体的な内容を述べていた。ラリーを体験したことで、災害サイクルの急性期における救護場面の看護師の役割を捉える機会となっていたことがわかる。

本研究において看護師の役割として、＜器材使用の判断ができる＞というカテゴリーが抽出されたが、学生を対象とした先行研究では、器材使用についてほとんど述べられていない。

看護師の果たすべき役割として、救急診療ブースでの診療介助では、限られた医療資器材を管理しながら多くの傷病者に対応することが必要である（横田, 2015）と述べられている。

学生は、ラリーに参加し、医療器材の必要数の把握と使用についての優先順位を検討する必要性を学んでいた。更に、学生はラリー参加により災害時の看護師の役割の一つである器材の使用について看護師が把握しておく役割があることを学ぶことができていたと考える。

＜迅速に処置を実施する＞では、要救護者を迅速に救護するために、看護師自身が知識を持ち、医師の処置が円滑に行えるように補助することが看護師の役割の一つであると学生は捉えることができていた。先行文献では、看護の果たすべき役割として、受け入れる患者と必要な医療をアセスメントし、限られた医療資器材で多くの傷病者と入院患者に医療が提供できるよう医師と協働することが求められる（横田, 2015）と述べられている。ラリーに参加した学生は、救護時の判断力や患者に起こっていることを理解することなどのアセスメント力を持ち、処置を円滑に実施できるようにする看護師の役割を自覚することができていたことがわかる。

＜全体把握をし、状況判断ができる＞は、看護師自身が災害現場やチームの活動状況を即座に把握し、患者の状態をアセスメントして主体性と責任を持って看護を実践することが看護師の役割であると学生

が捉えている内容である。学生は必要があれば、医師に意見を言う必要があると学んでいた。看護業務基準2016年度改訂版の中に、「必要があれば医師の指示した医療行為に対して疑義申し立てを行うこと」が新たに記載された（日本看護協会, 2016）。ラリーに参加した学生は、日本看護協会が述べているように医師役の学生が混乱している時に、看護師が知識を持って他職種の学生達に意見を言える主体性と責任を持つ必要性を学んでおり、他職種の学生達との連携を体験したことから学べた本研究の特徴的な内容である。

＜災害現場の情報収集を行う＞は、学生の記述より患者の状態をアセスメントして正しく処置をするために、看護師が要救護者および発見者から情報収集をする重要性を学んでいた。今枝他（2004）は、市町村合同訓練に学生の訓練への協力要請を受け、重症・中等症ゾーンの救護者役として参加した学生5名の学びを抽出しているが、情報収集の重要性は述べられていなかった。これは、学生が医師、看護師と共に救護を実施しており、学生自身が主体性を持つことに限界があったのだと考えられる。学生はラリーで、学生のみグループで救護を実施しなければならず、看護の主体者としての体験から、情報収集をする重要な看護師の役割に気付くことができたためだと考える。

＜救護者間で情報共有する＞は、学生は要救護者の救護を的確に、また素早く実施するために、リーダーや他の救護者へ情報を的確に伝え情報共有する重要性を学んでいた。また救護が円滑に実施できるように他の救護者間でのコミュニケーションがとれるよう看護師が周囲に働きかける役割があると認識していた。

成田（2009）の調査は、救護訓練に参加した学生に質問紙調査にて看護師の役割を尋ねている。そのため、学生が体験から得た学びが具体的に抽出されていない。また今枝他（2004）の調査結果でも、情報収集については述べられていない。これは先に述べたように、学生は、看護の主体者としての実践から学びを得たためだと考えられる。

災害医療実施のキーワードとして、CSCATTTが言われている（浦田他, 2015）。その中にCommand and Control（指揮・統制）およびCommunication（情報伝達）がある。本研究結果における＜災害現場の情報収集を行う＞＜救護者間で情報共有する＞は、災害時における組織作りとしてチームという一単位ではあるが、連携を取り迅速な情報収集と伝達を実施することが、要救護者を迅速に救護できる重要な点であるということを学生がラリーから学んでおり、災害医療実施の基礎を実体験していたことがわかる。

＜要救護者、家族、周囲の人への精神的援助を行う＞および＜家族への状況説明を行う＞で抽出された結果は、先行研究でも述べられている内容である（今枝他, 2004；成田, 2009）。本研究結果の特徴的な内容は、【周囲の人々への対応を行い、環境を整える】で述べられている、発見者や見物者などの混乱に対応する必要性と、要救護者のプライバシーを保護するために周囲の人々へ働きかける役割が看護師にあると学生が捉えていたことである。

学生は、災害看護論の机上での授業を開始する前にラリーに参加した。机上の授業では救護活動時の実践内容まで教授することは難しく、ラリーにより救護を実体験することで、現場の安全確保や器材の使用法、応援要請や多職種連携の重要性を学んでいた。また、他職種の学生達とチームを組み、学生主体で救護の実践をしなければならず、その体験の中から多職種連携やチーム医療を円滑に行うための看護師の責任と役割などを見出ししていた。これらより、リアリティがある模擬患者への対応を行うラリーに参加し、看護の主体者として実践することにより、災害急性期における看護師の役割についてイメージが持て、実際の救護活動を理解できたと考えられる。

## VIII. まとめ

災害看護論の授業の一環として参加したラリーで看護学生が捉えた災害時の看護師の役割について

明らかにすることを目的とし、学生のレポートを分析した。学生が記述した災害時の看護師の役割は、＜災害現場の安全を確保する＞＜応援要請を行う＞＜救護活動を実践する＞＜器材使用の判断ができる＞＜迅速に処置を実施する＞＜全体把握をし、状況判断ができる＞＜災害現場の情報収集を行う＞＜救護者間で情報共有する＞＜要救護者、家族、周囲の人への精神的援助を行う＞＜家族への状況説明を行う＞の10のカテゴリーが明らかとなった。学生は、他職種の学生達とチームを組み、看護の主体者として救護を行うことにより、看護師としての責任とチーム医療における看護師の役割、および救護時の多くの看護実践内容を体験から学びに繋げていた。

## 謝辞

本研究にご協力下さいました皆様に感謝申し上げます。

## 文献

- 今枝博美, 目秦賢子, 西谷千恵, 飛永眞由美(2004) : 地震を想定した大規模防災訓練に救護者役として参加した看護学生の体験. 第35回日本看護学会論文集 看護教育, 30-32.
- 公益社団法人日本看護協会 (2016) : 看護業務基準 2016改訂版. アクセス2017年8月7日, <https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/pdf/kijyun2016.pdf>
- 柏葉英美, 奥寺三枝子(2014) : 看護基礎教育における災害ボランティアの教育効果. 岩手県立大学社会福祉学部紀要, 16, 1-9.
- 厚生労働省医政局長(2016) : 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン(抜粋). アクセス2017年7月18日, <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000099698.pdf>.
- 幸島美絵, 畑吉節未, 川端宏果, 道廣睦子(2014) : 看護学生のレディネスを生かす災害看護教育方

- 法の検討. 日本看護学会論文集 看護教育, 44, 26-29.
- 前田幹香, 増田信代(2011): 防災訓練にトリアージを取り入れた学習の実践報告. 神奈川県総合リハビリテーション事業団厚木専門学校紀要, 1, 1-5.
- 文部科学省(2017): 指定規則改正への対応を通して追究する看護学教育の発展. アクセス2017年7月8日, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/031/toushin/07091402/005.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/031/toushin/07091402/005.htm).
- 中川杏奈, 守田千純, 山田実佳, 伊丹君和(2015): 継続した被災地でのボランティア活動が現地の人々や看護学生に与える影響. 日本看護学会論文集 看護教育, 45, 71-74.
- 中村有美子, 藤井可苗, 菅野夏子, 小野ツルコ(2013): 看護学生の災害看護学履修別防災意識と防災行動の検討. ヒューマンケア研究学会誌, 5 (1), 55-60.
- 成田広美(2009): 災害救護訓練に参加した学生の学びと「災害看護」の学習内容. 愛知県立総合看護専門学校紀要, 7, 10-15.
- 佐藤節美(2014): 災害の少ない地域の学生が主体的に取り組む災害看護の学習成果—東日本大震災から学ぶ災害看護—. 日本看護学会論文集 看護総合, 44, 302-305.
- 浦田喜久子, 小原真理子(編)(2015): 系統看護学講座 災害看護・国際看護. 30-32, 医学書院, 東京都.
- 横田由佳(2015): 看護の果たすべき役割. 杏林医会誌, 46 (4), 295-299.